佐賀大学 SAGA UNIVERSITY
理工学部 FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING

2026 年 10 月 22 日

インドネシア・ランブンマンクラット大学工学部が理工学部を表敬訪問 学部間交流協定の更新とサンドイッチプログラム協定を締結

【概要】

2026 年 8 月 5 日（水）に，インドネシア・ランブンマンクラット大学工学部の訪問団が理工学部を表敬訪問し，学部間交流協定を更新するとともに，サンドイッチプログラムに関する協定を締結しました。これにより，博士前期課程および博士後期課程における教育・研究交流のさらなる発展が期待されます。また，訪問期間中には，特別講義や学位論文審査，現地見学などを通じた幅広い交流が行われました。

【本文】

2026 年 8 月 5 日（水）に，インドネシア・ランブンマンクラット大学（ULM）工学部の Iphan Fitrian Radam 学部長をはじめとする訪問団が理工学部を表敬訪問しました。今回の訪問では，これまでの教育・研究交流の実績を踏まえ，両学部間の交流協定を更新するとともに，新たにサンドイッチプログラムに関する協定を締結しました。

ランブンマンクラット大学は，インドネシア・カリマンタン島南部の南カリマンタン州に位置する大学です。同地域には広大な低平地が広がり，軟弱地盤，内水氾濫，洪水制御など，佐賀低平地と共通する課題を抱えています。両大学では，こうした地域課題を背景として，2016 年に学部間交流協定を締結し，学生交流や共同研究を継続してきました。特に，2024 年からは科学研究費助成事業（科研費）による国際共同研究を進めるなど，交流をさらに深めています。

表敬訪問では，これまでの交流実績を振り返るとともに，今後の教育・研究連携について意見交換が行われました。佐賀大学側からは，留学生受入プログラム「SPACE」を通じた学生交流や大学院教育について説明があり，ULM 側からは，日本人学生の受入れも可能であることが示されました。今回締結したサンドイッチプログラム協定により，大学院生が両大学で教育・研究指導を受ける機会が広がり，博士前期課程および博士後期課程における教育内容の充実が期待されます。また，両地域に共通する低平地の課題についても議論が交わされました。佐賀大学側にとっても，将来の気候変動を考慮した水管理や防災対策を検討する上で，インドネシアの低平地における事例は重要であり，今後も共同研究を通じて連携を強化していくことが確認されました。

訪問期間中には，教育・研究に関する多様な交流も実施されました。8 月 4 日（火）には，ULM の Dr. Maya Amalia を外部審査員として招き，本学博士後期課程の学生の学位論文審査を実施しました。また，8 月 6 日（木）には，Dr. Maya Amalia，Dr. Rizqi Puteri Mahyudin，Mrs. Gusti Ihda Mazaya による特別講義を開催しました。この講義は，佐賀大学の学生が参加するインドネシア・ハサヌディン大学工学部での海外研修プログラムの事前研修としても位置付けられています。

さらに，佐賀市下水浄化センター，佐賀市清掃工場，東与賀海岸などを見学し，佐賀地域における水環境管理や社会基盤施設，沿岸環境について情報収集を行いました。

今回の学部間交流協定の更新・サンドイッチプログラム協定の締結を契機として，両大学の学生・教員交流をさらに発展させるとともに，低平地が抱える共通課題の解決に向けた国際的な教育・研究連携を推進していきます。

末筆ではございますが，佐賀市下水浄化センターならびに同清掃工場の皆様には見学受入にて多大なご協力を賜りました。ここにお礼申し上げます。



両大学の学部長の記念写真



佐賀市清掃工場訪問の記念写真



佐賀市下水浄化センター訪問の様子